

世界規模での脱炭素社会の実現に向けた原子力分野の国際機関への期待

Expected Roles of International Organizations in Decarbonizing Global Society

* 舟木 健太郎

経済産業省

グローバル大で気候変動問題に対応し脱炭素社会の実現を目指すためには、国際機関に期待される役割が大きく、原子力分野についても各機関が強力なリーダーシップを発揮することが期待される。2050 年に向けた原子力開発の見通しを展望した上で、国際機関を通じて国際協力を進めていくべき主要課題を考察する。

キーワード：国際協力 (International Cooperation)、国際機関 (International Organization)、気候変動 (Climate Change)、原子力開発 (Nuclear Development)、電力需要見通し (Electricity Demand Outlook)

1. 2050 年の低炭素社会実現の目標に向けた原子力への期待

国連気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の 1.5℃特別報告書では、世界の平均気温上昇を 1.5℃未満に抑えるためには、再生可能エネルギーとともに原子力発電の導入増が必要と明確に示されている。国際エネルギー機関 (IEA) は、2040 年までに全電源における低炭素電源の比率を 85%に高め、原子力を現状から大幅に増加させる必要があるとし、既導入国でのフェードアウトは社会的費用の増大を招くとの警鐘を鳴らしている。また、新興国を含め多様なニーズに対応するため、小型モジュール炉開発の加速化への期待が高まっている。

2. 2050 年に向けた世界の原子力開発の見通し

既に 2020 年代に入って新たな 10 年がスタートしているが、30 年後の 2050 年という節目に向けた重要な第一フェーズである。世界で原子力と再生可能エネルギーが共存する低炭素社会の具体的なビジョンを共有することができれば、そのビジョンの実現に向けた中長期的なマイルストーンを描いた上で、直ちにアクションに移すことができる。国際原子力機関 (IAEA) 等が推計している世界の電力需要や原子力開発の見通しについて地域毎に展望する。

3. 国際機関のリーダーシップへの期待

グローバル大で気候変動問題に対応し脱炭素社会の実現を目指していくためには、国際機関に期待される役割が大きく、原子力分野についても IEA、OECD/NEA、IAEA それぞれにおいて強力なリーダーシップが発揮されることが求められる。2050 年の原子力開発の見通しを確固たる実現可能なものとしていくためには、既導入国が連携して一層の安全性・経済性の向上を図るとともに、新規導入国と知見・経験を共有していく仕組みを構築することが不可欠である。特に、以下の 5 つの観点から国際協力・協調の強化を図るために、国際機関が果たすべき役割を考察する。

- ・ 低炭素化社会実現をグローバルに進めていく上での原子力の意義と実現性 (Viability) の再確認
- ・ 福島第一原子力発電所事故から 10 年が経過する中での不断の安全性向上の追求に向けた国際協調
- ・ サプライチェーンのグローバル化進展に伴う課題への対応
- ・ 原子力イノベーション加速に向けた国際協力
- ・ リソースを効率的・効果的に活用するための国際共同研究と人材育成

*Kentaro Funaki, Ministry of Economy, Trade and Industry